



睡眠時無呼吸症候群

龍 鈴木 龍 県歯科医師連盟評議員

居眠り運転による悲惨な交通事故が多発しているが、病気が原因かもしれないという認識は薄い。病名を睡眠時無呼吸症候群という。

この病気は、睡眠に必要とされるノンレム睡眠（いわゆる深い眠り）ができない。そのため、睡眠時間が長くてもいつも眠く、仕事中でも居眠り



をしてしまう。病気なので根性論では解決できない。

対策として、医科との連携で気道を広げるマウスピース治療が、歯科でも保険導入されたが、効果として確実なものではなかった。現在は医科からの要望による上顎骨の拡大が治療法として注目されている。

しかし上顎骨の発達

成長期に上顎骨拡大を

□□ 15 □□

神経系に属し、十二歳でその成長は終わってしまった。上顎骨成長期に適切な拡大を行う必要があるという考えが、呼吸生理学の主流とされている。

食生活の変化からか、小学校の歯科検診でもほとんどの児童が上顎骨の成長不足であるが、不正咬合の範囲ではないため記録されない。上顎骨は小学生くらいまでなら簡単な装置で拡大が可能だ。いいかえれば歯科で治す病気とも言える。

十一月十三日、無呼吸症候群をテーマに浜松アクトシティで講演会を開催する。講師はこの研究を長く行っている東京歯科大市川病院の外木守雄准教授、私の同級生である。ぜひ小児科や呼吸器系の医科の先生方にも聞いていただきたいと思っている。

講演会は午前十時～午後三時半。定員は先着百人で参加費は三千元。

問い合わせは、すぎ

歯科医院 電 0538

(42) 1184、ファク

ス 0538 (43) 22

60、Eメール office@

suzuki-shika.or.jp

＝く。